

農業委員会だより



# よさの

第41号 R3.12発行

編集発行

与謝野町農業委員会  
広報編集委員会

与謝郡与謝野町字加悦433番地  
(加悦庁舎2階)

TEL:0772-43-9023(直通)



## 朝日に染まる加悦谷平野の田園風景

### 【目次】

アクアポニックス（水耕栽培と養殖）に挑戦 .....	2
ドローンを利用した農地撮影 .....	2
認定農業者会が町長と懇談 .....	2
三河内地区活動組織が受賞 .....	3
京都府農林水産業功労者表彰・若手農林漁業者表彰 ..	3
農地パトロールを実施しました .....	3
「涼風ゴールデン」が銅賞受賞 .....	4
編集後記 .....	4



野田川を遡上するシャケ

## アクアポニックス(水耕栽培と養殖)に挑戦

与謝地区の砂後建設(株)が新たな取り組みとして、昨年11月から水耕栽培に挑戦されています。同社は約10年前に農業部門を設立し、現在は20haの農地でコシヒカリを栽培。育苗のためのビニールハウスを設けていますが、4、5月の時期しか活用されないことから、何か他の取り組みが出来ないだろうかと思案したところ、水耕栽培のことを知り、会社として挑戦することを決定されました。水耕栽培は無農薬栽培や生育が早い等のメリットがある反面、初期投資の負担が大きいというデメリットもある。そこで、使わなくなった建設資材を利用して設備を設けて、与謝峠から流れ込む山水を利用することで対応。化学肥料を使わずに環境にやさしい肥料を探していたところ、「アクアポニックス」という養殖と水耕栽培を組み合わせた農法を知り、5月から鯉の養殖を始めました。魚のフンをバクテリアが分解して、その養分が溶け込んだ水を使用する仕組み。

現在はバジルやルッコラのハーブ系とわさび菜等のレタス系の葉物野菜を中心に栽培されています。砂後隆正社長は「荒れた農地を守っていくとともに、新しい取り組みに挑戦することにより、与謝野町の魅力を外部に発信できれば嬉しい。また、この町に人が住み続けられるような環境を作っていきたい。」と語っておられました。



鯉の様子を確認する砂後社長



## ドローンを利用した農地撮影

11月10日、ドローンを利用した農地の撮影が、滝・金屋地区で行われました。今回の撮影は、リクルートと長野県、信州大学が共同開発した「航空写真×数値標高モデル」を用いて、水田の畦畔面積や傾斜角、農地に占める畦畔の割合を計測可能にしたもので、京都府がその技術に注目して京都ドローン協会に依頼したものです。この調査データが、傾斜地の多い中山間地域での労働や畦畔管理(草刈り等)の負担軽減に活かされるかが注目されます。



ドローン撮影の様子

## 認定農業者会が町長と懇談

10月28日、役場加悦庁舎元気館で認定農業者会会員と町長との懇談会が開催されました。毎年、農業を取り巻く環境や状況について、農業者と町長との意見交流の場として行われています。会員からは、豆っこ肥料の安定供給や農機具購入時の補助、コロナ対策支援等の要望や意見がありました。町長に対して現場の状況や要望を直接伝えることができ、大変貴重な時間となりました。



懇談会の様子

## 三河内地区活動組織が受賞

12月2日に役場加悦庁舎で京都府農地・水・環境保全向上対策協議会表彰式が開催され、同協議会副会長から三河内地区活動組織へ京都府農業協同組合中央会長賞が授与されました。

三河内地区活動組織では、地域の子どもたちと生き物調査を行ったり、環境美化活動の一環として水路の泥上げや草刈り、農道補修、水路整備を行う等の活動に取り組みられています。また、耕作放棄地の発生を防ぐための対策もされており、それらのことが今回高く評価されました。今後も組織全体として、地域の水田を守り続けて後世に引き継いでいただけることを期待します。



三河内地区活動組織 森 敬一 代表

## 京都府農林水産業功労者表彰・若手農林漁業者表彰

11月27日に京都府総合見本市会館で京都府農林水産業功労者・若手農林漁業者表彰の授与式が開催されました。茂籠進さん（下山田）、藤岡静子さん（四辻）が農林水産業功労者表彰、伊達直人さん（石川）が若手農林漁業者表彰を受賞されました。茂籠さんは、「京の豆っこ米」栽培をはじめ、減農薬等による農業を実践するほか、地域特産品として桜の栽培を行い地域活性化にも尽力されていること、また、藤岡さんは長年、菌床しいたけの生産に先進的に取り組まれ、常に技術の研鑽に努め、優れた栽培技術で林業の振興と発展に尽力されたことが評価されました。伊達さんは、農地集積を進め、町が推進する自然循環農業を実践し、水稻作に「京の豆っこ」肥料を導入する先進的な取り組みを行うなど、若手農業者のリーダーとして評価されました。皆様の今後のご活躍が期待されます。



茂籠 進さん



藤岡 静子さん



伊達 直人さん



## 農地パトロールを 実施しました

農業委員会では、年に1回、農地パトロールを実施しています。今年度は、11月17日と18日の2日間、農業委員会の委員が2班に分わかれて、令和2年度に農地法3条（農地としての売買）の許可を受けた農地や形状変更（田の嵩上げ等）の承認を受けた農地を中心にパトロールを行いました。8月の改選で新しく委員になられた方も熱心に現場を確認し、様々な意見や指摘がなされました。ほとんどの農地が適正に計画どおり実施されていました。今後も皆さまの適正な農地の利用をお願いします。



現場を確認する委員



形状変更中の農地

# 「涼風ゴールデン」が銅賞受賞

～ インターナショナル・ビアカップ2021 ～

日本地ビール協会主催の「インターナショナル・ビアカップ2021」が9月24日と25日の両日に横浜で開催され、京都与謝野酒造合同会社の『涼風ゴールデン』が見事に Fresh Hop Beer 部門で銅賞を受賞されました。この大会は、日本国内のビールのみでなく世界各国からのビールを審査対象に各カテゴリーで金銀銅賞を選定する国際的なもので、今年は世界8ヶ国から943の銘柄がエントリーされました。受賞されたことについて、同社代表の藤原ヒロユキさんは「与謝野町産のホップの品質が高く評価された」と喜びを語っておられました。



## 農業者年金で老後の生活を安心サポート

農業者年金は3つの要件を満たせば、どなたでも加入することができます。

加入要件 ① 20歳以上60歳未満の方

② 国民年金第1号被保険者（保険料免除者を除く）

③ 年間60日以上、農業に従事している方

保険料 月額2万円から6万7千円まで千円単位で選択することができます。

特徴 ★ 少子高齢化時代に強い積立方式の確定拠出型年金です。

★ 終身年金で、80歳前にお亡くなりになった場合には、死亡一時金を遺族の方にお支払いします。

★ 公的年金ならではの税制上のメリットがあります。

## 全国農業新聞を購読しませんか



全国農業新聞は、地域農業者の代表機関である農業委員会ネットワークが発行する農業専門紙です。1週間の農政の動きや、現場で役立つ栽培技術・流通の情報、魅力的な農家の取り組みを幅広く伝え、担い手の皆様の経営発展に役立つ新聞です。購読を希望される方は農業委員会へお問い合わせください。

■発行／毎週金曜日

■購読料／月額700円（税・送料込）

### 編集後記

先日、家を離れている息子から、一つの画像が送信されてきました。見ると、期間限定で与謝野町の野菜を使った豚汁を学食で提供するとのお知らせ。「こういうのを見ると嬉しくなるね。」と言っていました。豚汁も美味しかったです。たみたいですね。与謝野町を離れている人達が「これ、うちの地元なんだ」って誇ってもらえるようなお米や野菜を届けていけるように頑張らなければと思わせてくれたほんの1コマです。

今年も残り僅かとなりました。来る年が平穏に過ぎますように。



（小田則子 副委員長）

### 広報編集委員

大内 裕揮 委員長  
小田 則子 副委員長  
成毛 義信 委員  
森垣幸一郎 委員  
大原 貞一 委員  
木村有紀子 委員